

高等学校

平成 6 年 度

教育研究員研究報告書

教育経営

東京都教育委員会

平成 6 年 度

教育研究員名簿(教育経営)

NO.	学 区	学 校 名	氏 名
1	1	都立九段高等学校	金 田 保 夫
2	5	都立京橋高等学校	島 田 悦 郎
3	5	都立蔵前工業高等学校	小 山 実
4	6	都立紅葉川高等学校	松 橋 和 江
5	7	都立山崎高等学校	河 上 正 道
6	8	都立武蔵村山高等学校	大 塚 一 雄
7	8	都立羽村高等学校	鈴 木 勝 彦
8	9	都立田無高等学校	徳 重 隆
9	9	都立国分寺高等学校	平 山 隆 造
10	9	都立清瀬東高等学校	田 口 隆
11	9	都立東村山西高等学校	赤 羽 克 己
12	10	都立南野高等学校	清 水 一 幸

担当 指 導 部 主任指導主事 天 井 勝 海

指導部高等学校教育指導課 指 導 主 事 高 野 敬 三

**研究主題 社会の変化と多様な生徒に対応する
高等学校教育の推進**

－ 東京都における総合学科高等学校の研究 －

目 次

I	主題設定の理由	2
II	総合学科の理念と教育課程編成の基本方針	3
	1 総合学科高等学校開設の背景	
	2 総合学科のねらいと東京都における総合学科高等学校	
	3 教育課程編成の基本方針と留意点	
	4 特別活動の基本方針と留意点	
	5 入学者選抜、科目の履修・修得、卒業の認定	
III	具体的な教育課程の編成	6
	1 Aタイプ高校	
	（1）教育課程編成の基本的な考え方	
	（2）教育課程表	
	（3）特色ある教科・科目の構成	
	2 Bタイプ高校	
	（1）教育課程編成の基本的な考え方	
	（2）教育課程表	
	（3）特色ある教科・科目の構成	
	3 原則履修科目	
IV	特色ある教育活動の推進	15
	1 授業における指導の工夫	
	2 特別活動	
	3 生活指導	
	4 進路指導	
V	学校経営上の課題	22
VI	まとめ	24

I 主題設定の理由

今日、我が国は、科学技術の進歩と経済の発展によって、高度情報化、国際化、高齢化等が急速に進み、価値観の多様化をもたらしている。また、高い進学率を背景に、高等学校は、多様な特性や進路希望などをもつ生徒を受け入れる教育機関となっている。

このような変化に対応して、よりたくましく生きていく力や人間性豊かに生きていく力を育成するために、学校教育の改善・充実を図ることはきわめて大切なことである。

しかし、そのなかで、学校教育がややもすると画一的で旧態依然として、社会の要請に応えていないという批判がある。特に高等学校教育に対してこうした強い指摘がある。

このような状況の中で、将来の我が国及び世界を担う世代をどのように育み成長させるかは、まさに国民的課題である。学校には、このような内外の社会の動きに主体的に対応して、来たるべき時代にふさわしい教育の在り方を構想し具現化していくことが要請されている。ここ数年来、さまざまな改革のための提案が行われ、それらを踏まえて学校教育法施行規則や高等学校設置基準などの一部改正が行われた。このことにより従来にはないタイプの高等学校を設置することが可能になった。他県においても、第三の学科である総合学科高等学校や全日制単位制高等学校などを設置しつつあるのは、新しい教育の姿を求める努力のあらわれの一つである。

こうした流れを踏まえて、本年度の教育経営部会では、これからの高等学校教育のあるべき姿を求めて、さまざまな角度から検討を重ねてきた。その結果、研究主題を「社会の変化と多様な生徒に対応する高等学校教育の推進」とすることにした。さらに、議論を深める過程で、平成元年に行われた学習指導要領改訂のねらいである「これからの社会の変化とそれに伴う生徒の生活や意識の変容に配慮しつつ、生涯学習の基礎を培うという観点に立ち、21世紀を目指す社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を図る」を踏まえ、東京都における全日制総合学科高等学校を取り上げ研究を行った。特に本部会では、平成8年4月に開校予定の都立晴海地区総合学科高等学校（仮称）に次ぐ、第二、第三の全日制課程における総合学科高等学校の教育課程の試案を策定するとともに、予想される課題等について具体的に検討した。

研究の前提として、対象となる全日制総合学科高等学校の学校規模などの基本的輪郭は次の通りとした。

- ① 1学年相当を6学級、計18学級規模とする。
- ② 無学年・単位制による教育課程編成を行う。
- ③ 学校週5日制完全実施に対応した教育課程の編成を行う。
- ④ 前期・後期の二期制を採用する。
- ⑤ 1時限50分で1日6～8時限授業を原則とする。
- ⑥ 人間としての在り方生き方を重視した進路ガイダンスを充実させる。
- ⑦ 入学年度を基礎としたホームルーム活動を行う。
- ⑧ 体験的な学習・ボランティア活動を充実させる。
- ⑨ 入学者選抜の方法は、学力検査と推薦の二本立てとする。
- ⑩ 学校教育のインテリジェント化を図る。

Ⅱ 総合学科の理念と教育課程編成の基本方針

1. 総合学科高等学校開設の背景

21世紀に向けたわが国の社会は、高度情報化、国際化、高齢化の進展などを背景に、急速かつ大きく変貌しようとしている。

現在、社会の変化にともない生徒の意識も変化し、多様化している。しかし、学校には、多様化した生徒の特性や進路希望等、地域・保護者の要望などに対して十分な対応がなされていない現状がある。また、教育課程の編成が画一的で、生徒や保護者の要望や実態に沿ったものになっていないという批判がある。

中学校における偏差値偏重の進路指導は高等学校への不本意入学を生み、中途退学者を増大させる一因となってきた。また、高等学校における、画一的な教育や大学受験競争の激化は、生徒の目的意識や学習意欲の低下を生みだし、生徒が問題行動にはしる要因にもなってきた。また、現在の高等学校では、入学後の転入学が容易ではなく、単位制の考え方が十分に生かされていない現実がある。

これらの改善のためには、基本的には社会における学歴偏重の考え方を是正していくことが必要である。言い換えれば、生涯にわたってどのような知識、技術や資格を身に付け、どのようにして豊かな人間性を養ってきたかなどの個人の生涯にわたる学習歴が正しく評価されるような、学習歴社会を創り出す必要がある。

このため、学校教育においては、生涯にわたる人間形成の基礎を培うため、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実や自己教育力の育成を図ることが期待されている。その場合、学力を単なる知識や技能の量の問題としてとらえるのではなく、生徒が自ら考え主体的に判断し行動するために必要な資質や能力などの総合力としてとらえることが重要である。また、生涯学習社会と密接な関連を有するボランティア活動は、個人の自由意思に基づき、技能や時間等を進んで提供し社会に貢献するものであり、豊かで活力ある社会を築き、生涯学習社会の形成を進める上で重要な役割を持つ。したがって、学校教育においては、生徒のボランティア精神などを培うための体験的な活動の機会を設けるなど、教育活動全体を通じて積極的な指導を行うことが重要である。

また、人生80年時代を迎え、今日のように技術革新の進展等に伴い産業・就業構造が大きく変化している時代にあっては、将来の進路についての明白な展望を見定めることが難しいなどの理由から、若者の職業の選択についても先送りされる傾向が目立ってきたと言われている。また、めまぐるしく変化する現代社会においては、産業構造の変化等に伴い、従来には見られなかった新しい職業分野が生じてきており、大学等の高等教育機関においても学部・学科等の改編が進められている。

こうした状況のもとにあっては、中学校卒業時に、生徒が将来の進路について明確な見通しを持たないことを、自己の進路に対する意識が希薄であるとして一概に否定的にとらえるのではなく、むしろ、高等学校における様々な学習や活動を通して自己の能力や適性を見いだしていこうとする積極的な契機としてとらえることも必要である。

このようなことを背景として、文部省は、平成5年3月に、総合学科の高等学校を設置でき

るよう高等学校設置基準の一部を改正した。

2. 総合学科のねらいと東京都の総合学科高等学校

現行の学科制度では、普通科は進学、職業学科は就職という受けとめ方をされがちであり、特に、職業高校においては、高校卒業時の進路を高校入学時に決めるという傾向がある。

このようなことが、不本意入学や中途退学者の増加の一因となっているといえる。このような現状を踏まえ、普通教育と専門教育とを統合して、多様な選択科目を設置し、生徒がより柔軟に、弾力的に、科目を選択することができ、高校入学後3か年間で、自己の特性に合った進路を実現することを容易にする総合学科高等学校を設置することが必要であると考えます。

とりわけ、政治・経済の中心として社会の変化の著しい東京では、その特性を生かした総合学科高等学校を設置することが大切である。その際、生徒や地域の実態に即した個性的で特色のある教育活動を積極的に推進するとともに、教育内容・方法の改善・充実を図り、主体性・独自性を十分に発揮し、生徒がそれぞれの個性に応じた多様な教科・科目を選択するシステムの充実を図ることが重要である。特に、東京都では、生徒の多様な進路希望に応えるために、大学等の上級学校への進学希望者に対応できる教育課程編成にも配慮する必要がある。

国際化、情報化、ソフト化の進展の中で、日本の首都である東京には、観光や貿易・通関業務、不動産の取引などが大きな産業として存在するとともに、企業の研究開発部門やサービス部門が集中している。学校教育には、それらに係わるより専門的な学習が求められている。

3. 教育課程編成の基本方針と留意点

総合学科高等学校設置のねらいの一つに、生徒一人一人の個性を生かした主体的な学習を保障し推進することがあげられる。このため、東京都における総合学科高等学校では、以下、(1)～(12)の方策に基づいて、多様で弾力的な単位制による教育課程を編成するとともに、教育内容・方法や評価の改善を図る必要がある。

- (1) 履修の指針として、複数の「総合選択科目群」(系列)を設ける。
- (2) 基礎的・基本的な科目を重視するとともに、生徒の多様な興味・関心などに応じて、専門的、体系的な学習も可能となるように配慮する。また、生徒の個性を生かした主体的な選択を通して、実践的・体験的な学習ができるようにするため、多様な自由選択科目を開設する。
- (3) 系列に普通科目、専門科目を数多く開設し、有機的に組み合わせた編成とする。
- (4) 生徒の目的意識や進路意識を育むため、主体的な科目選択や将来の職業選択のためのガイダンスを充実し、選択する過程そのものの持つ教育的効果を重視する。
- (5) 生徒の特性に応じた、ティームティーチングや少人数による授業、習熟度に応じた授業など多様な形態の授業を実施する。
- (6) 弾力的な教育課程の編成・実施のため、各学期ごとに講座を開講したり、特に必要がある場合には、特定の期間に集中的に授業を行うなど履修形態を多様なものにする。
- (7) 地域社会で活躍している社会人や大学等の教員などを市民講師として積極的に活用する。
- (8) 学校間連携による履修や専修学校での学習の成果を単位認定する。
- (9) 技能審査の成果を単位認定する。
- (10) 普通教育に関する教科・科目の必修単位数は35単位とする。

(11) 専門に関する教科・科目を30単位以上開設する。

(12) 「産業社会と人間」「情報に関する基礎的科目」「課題研究」は、原則としてすべての生徒が、卒業までに各2～4単位履修する。

4. 特別活動の基本方針と留意点

特別活動の目的は、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と、個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養うことにある。特に、総合学科の高等学校では、教育課程が単位制によって編成されるため、ホームルームと学習集団が一致しなくなる。したがって、特別活動に支障が生じないように、異年齢集団との交流のメリットを積極的に活用するとともに、次の(1)～(4)に基づき、特別活動を充実する。

(1) ホームルーム活動は、入学年度を基礎として行う。

(2) ボランティア活動を積極的に行う。

(3) 学校行事と教科・科目の体験的な学習との有機的な連携を図る。

(4) 生徒会活動、部活動など、生徒の自主的な活動を促進する。

5. 入学者選抜、科目の履修・修得、卒業の認定

(1) 入学者選抜の方法

- ・学力検査は、学力試験や調査書等によって行う。
- ・推薦による選抜は、面接、作文、調査書によって行う。

(2) 学期

- ・前期・後期の二期制とし、後期からの入学を可能とする。

(3) 科目の履修・修得

- ・単位の認定は、学期ごとに行えるようにする。
- ・履修と修得を区別して認定する。
- ・すべての生徒が履修する原則履修科目を設置する。

(4) 卒業の認定

- ・総合学科高等学校を卒業するための修業年限は3年とする。
- ・卒業するために必要な修得単位数は80単位とする。
- ・転・編入してくる生徒は、入学前に在籍していた高等学校の修得単位数、在籍年数を本校での修得単位数、在籍年数に加えることができる。
- ・特別活動に十分な成果を上げていることを卒業の条件とする。
- ・3年を超えて在籍し、所定の単位数を満たした者の前期終了時の卒業を認める。

Ⅲ 具体的な教育課程の編成

具体的な教育課程の編成に当たり、東京都の実態に即した「総合学科」として、次の2つのタイプを構想した。すなわち、将来大学等で専攻したいと考える分野の基礎的な知識や技術を習得し、更に発展的な学習を継続しようという生徒に対応するAタイプ高校と、産業社会の進展に対応した学際的な分野の学習を深め、技術を習得しようという生徒などに対応するBタイプ高校を想定した。

1. Aタイプ高校

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

首都東京には大学・短期大学・専修学校など多数の教育機関が集中しており、生徒・保護者の多くが上級学校への進学を望んでいるという現状がある。このような地域性や要望を踏まえて本タイプを構想した。

つまり、系列や原則履修科目など総合学科の特色を十分に活用し工夫するとともに教育課程上、次の①～④に配慮した。

- ①将来の職業選択をも視野に入れた主体的で的確な進路選択能力や、進路実現に向けての意欲・能力の育成を図る。
- ②自己の特性や進路希望等に応じた多様な選択科目の学習を通して基礎・基本の充実を図る。
- ③更に、系統的・発展的に学習を深め、将来の職業生活における人間としての基礎的素養を確立すると共に、上級学校における教育を受けるのにふさわしい能力や適性を育成する。
- ④「産業社会と人間」では、自我を確立し、自他共存の認識に立った人間としての在り方生き方の学習を中心に置き、豊かな人間性を育むことを目指す。

このような観点から、6系列を設定し、以下にその目標と教科・科目の内容構成を示した。

<各系列の目標>

- ・生命科学系列……生命に関する基礎的な学習を通して、自然と人間、生命と人間についての理解を深め、生命のメカニズムを科学的に考察する能力や態度を育成する。
- ・理工学系列……理工学に関する基礎的な知識と技能を習得し、更に総合的・系統的に考察し処理する能力を高めるとともに、科学技術への関心を深め発展していこうとする意欲や態度を育成する。
- ・国際交流系列……豊かで調和のとれた国際感覚と国際社会で積極的に行動できるコミュニケーション能力を高めるとともに、国際社会の現状や様々な文化を理解し尊重することにより、共に生きる姿勢や態度を育成する。
- ・人文科学系列……人文科学・社会科学に関する基礎的な学習を通して、人間と社会についての諸問題を深く考察し解決しようとする能力や態度を育成する。
- ・スポーツ科学系列……スポーツを、行う楽しみ・観る楽しみという面だけでなく、競技として捉え、専門とする種目の強化を中心に学習活動を行い、科学的な考察やトレーニング方法を探究する能力や態度を育成する。
- ・芸術系列……音楽や美術に関する専門的な学習を通して、創造的な表現に必要な知識や技術を習得し、音楽・美術などの文化の発展に寄与する能力や態度を育成する。

(2) 教育課程表

教科	科目	単位数	1 年 次	2 年 次	3 年 次	計
必修科目	国語	国語Ⅰ	4	4		4
	地理	世界史B	4	4		7
	歴史	日本史B	4			
		地理B	4			
	公民	倫理	2		2	4
		政治経済	2			
	数学	数学Ⅰ	4			4
	理科	物理ⅠB	4			6
		化学ⅠB	4			
		生物ⅠB	4			
		地学ⅠB	4			
	保健	体育	7～9	2	2	7
	体育	保健	2	1		2
	芸術	音楽Ⅰ	2			2
		美術Ⅰ	2			
		書道Ⅰ	2			
		工芸Ⅰ	2			
	家庭	家庭一般	4	2		4
合 計			24	12	4	40
外国語	英語Ⅰ	4	4			4
原則履修科目	総合	産業社会と人間	2			2
		保健に関する基礎的科目	2	2		2
		課題研究	2		2	2
必修科目等・原則履修科目合計			30	14	6	50
総合選択科目計			0	16	14～24	30～40
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	3
	クラブ活動	3	1	1	1	3
基 礎 科 目			基 礎 科 目 以 外 の 科 目			自 由 選 択 科 目
総合選択科目	生命科学系列	国語Ⅱ (4)	物理Ⅱ (2)	*科学史 (2)	*環境科学 (2)	*人間関係学 (2)
		数学Ⅱ (4)	化学Ⅱ (2)	生物工学基礎 (2)	*地球環境学 (2)	現代文 (2)
		数学Ⅲ (4)	生物Ⅱ (2)	応用微生物 (2)	*生態学概論 (2)	古典概論 (2)
		数学A (2)	英語Ⅱ (4)	*基礎医学 (2)	公衆衛生 (2)	*小論文演習 (2)
		数学B (2)	リーディング (4)	*基礎看護 (2)		日本史A (2)
		数学C (2)	ライティング (4)	環境保全 (2)		世界史A (2)
	理工学系列	数学Ⅱ (4)	化学Ⅱ (2)	工業基礎 (2)	電子基礎 (2)	*日本文化史 (2)
		数学Ⅲ (4)	地学Ⅱ (2)	環境工学 (2)		*世界文化史 (2)
		数学A (2)	英語Ⅱ (4)	工業数理 (2)		*地域研究 (2)
		数学B (2)	リーディング (4)	*地球科学 (2)		*比較文化 (2)
		数学C (2)	ライティング (4)	*数理科学 (2)		*時事問題 (2)
		物理Ⅱ (2)		電気基礎 (2)		時事英語 (2)
	国際交流系列	国語Ⅱ (4)	英語Ⅱ (4)	英語表現 (2)	*中国語 (4)	*ディベート (2)
		国語表現 (2)	リーディング (4)	外国事情 (2)	*国際交流活動 (2)	*数学演習 (4)
		古典概論 (2)	ライティング (4)	*国際関係 (2)	*民族学 (2)	*物理学演習 (2)
		日本史B (4)	外国語コミュニケーションA (2)	LL演習 (2)	時事英語 (2)	*化学演習 (2)
芸術系列		世界史B (4)	外国語コミュニケーションB (2)	ドイツ語 (4)	*国際経済概論 (2)	*生物学演習 (2)
		地理B (4)		フランス語 (4)		*地学演習 (2)
	人文科学系列	国語Ⅱ (4)	数学C (2)	現代文 (2)	*国際経済概論 (2)	外国語コミュニケーションB (2)
		国語表現 (2)	英語Ⅱ (4)	漢文 (2)	*日本地誌 (2)	外国語コミュニケーションC (2)
		古典概論 (2)	リーディング (4)	*中近世古典概論 (2)	*世界地誌 (2)	リーディング (4)
		日本史B (4)	ライティング (4)	*東洋史 (2)		ライティング (4)
		地理B (4)	外国語コミュニケーションA (2)	*西洋史 (2)		LL演習 (2)
		数学Ⅱ (4)	外国語コミュニケーションB (2)	*法学概論 (2)		被服 (2)
		数学B (2)		*民俗学 (2)		食物 (2)
	スポーツ科学系列	国語Ⅱ (4)	リーディング (4)	スポーツⅠ (4)	*基礎医学 (2)	情報処理 (4)
		日本史B (4)	ライティング (4)	スポーツⅡ (4)	*基礎看護 (2)	
		数学Ⅱ (4)	外国語コミュニケーションA (2)	スポーツⅢ (4)		
		数学A (2)	外国語コミュニケーションB (2)	*競技スポーツ実践 (12)		
		生物Ⅱ (4)		*基礎トレーニング (4)		
		体育理論 (2)		*救急法基礎 (2)		
		*コーチ学 (2)		*テーピング実習 (2)		
		英語Ⅱ (4)		*スポーツ栄養学 (2)		
	芸術系列	国語Ⅱ (4)	リーディング (4)	音楽史 (2)	絵画 (2)	
		音楽Ⅱ (2)	ライティング (4)	美術史 (2)	ビジュアルデザイン (2)	
		音楽Ⅲ (2)	外国語コミュニケーションA (2)	ソルフェージュ (2)	環境造形 (2)	
		美術Ⅱ (2)	外国語コミュニケーションB (2)	器楽 (2)	図法・製図 (2)	
		美術Ⅲ (2)		声楽 (2)	コンピュータ造形 (2)	
		音楽理論 (2)		演奏法 (2)	ドイツ語 (4)	
		美術概論 (2)		作曲 (2)	フランス語 (4)	
		英語Ⅱ (4)		素描 (2)		

() は単位数を示す *印は他の科目を示す

(3) 特色ある教科・科目の構成

上級学校で専攻を希望する分野での基礎的内容を習得したり、将来の職業人として基礎的素養を確立するために次の教科・科目を考えた。特に、既存の普通科目や専門科目以外に教科横断型の学際的な科目も多く設置し、生徒の多様な特性や社会の変化に対応できるように配慮した。

<総合選択科目群のその他科目>

教科	科 目	ね ら い
地理歴史	民族学	世界の各民族についての文化や社会を学び、民族問題の概要について理解すると共に、どの様に国際社会で共生していくかを考察する能力と態度を育成する。
	民俗学	民間に伝わっている風俗・習慣・伝説・方言などを科学的に研究するとともに、それらが人々の生活とどのように関わっているかを考察する能力と態度を育成する。
	比較文化	東アジア・南アジア・西アジア・ヨーロッパなどの文化圏の特色を比較しつつ、各文化圏相互の交流や交渉について考察する能力と態度を育成する。
公民	国際交流活動	身近な地域での国際交流がどのように展開されているかを理解すると共に、国際交流の現状及び具体的内容について東京都及び地域の市町村を参考にして考察する能力と態度を育成する。
	国際経済概論	戦後の経済体制から近來の変動相場制等の国際経済体制の変遷を把握し、同時に現在の国際経済体制の問題点・課題を考察する能力と態度を育成する。
	人間関係学	「人間とは」から始まり「自分とは」「生きるとは」「人のつながりとは」などを考察する能力と態度を育成する。
	国際関係	近來の国際化が著しく進展している現状を踏まえて国際人として、世界各国とどのように交流していったらよいか考えることのできる能力と態度を育成する。
	法学概論	自国の法体系の枠組みを知ると同時に、日常のいろいろな出来事を法に則って考える能力と態度を育成する。
	時事問題	日々動いている国内外の政治・経済の動向を把握することにより、世界の大きな流れを捉え、国内外の問題について関心を払い、自分なりに意見を持つことのできる能力と態度を育成する。
理科	生態学概論	生物と環境及び同じ環境で生活する生物どうしの関係を理解するとともに、生態系・生物の生存のための環境条件などを考察する能力と態度を育成する。
	地球環境学	地球の温暖化・砂漠化・海洋汚染などの地球環境の悪化の現実を正確に把握し、課題を明らかにするとともに、それらを解決しようとする能力と態度を育成する。
体育	競技スポーツ実践	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲの中から部活動で行っている競技を選択し、自己に適した種目を強化する能力と態度を育成する。
	救急法基礎	日常生活の中で経験する各種の傷病等に対する症状や応急処置についての基礎知識を学び、自己の安全を自分で守る能力と態度を育成する。

2. Bタイプ高校

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

国際都市であると同時に、その経済・文化においても日本の中心である東京は、産業・就業構造が多様で複雑である。産業社会が急速に進展し、高齢化社会や生活文化の分野において、特に顕著となっている首都東京の実態を踏まえて、その特色を生かした教育活動を行うことができるような学校としてBタイプの高校を構想した。そして、現在の職業高校の学科も考慮に入れて、将来、社会的・経済的・文化的に発展が見込まれる分野の学習を通して、生徒の幅広い職業選択を可能とする高校を考えた。

また、教育課程編成上、次の①～⑤に配慮した。

- ①各系列の多岐な選択科目や「その他の科目」は、生徒の多様な特性などに対応し、活動を通して、基礎的・基本的な能力を身に付け、更に、進路に応じて、発展的・専門的な学習が深められるように設置する。
- ②各系列の基礎科目には、コミュニケーションや情報処理の能力育成の観点から、それらに関わる科目を共通に設置する。
- ③国語Ⅰ・数学Ⅰ・英語Ⅰの科目に関しては、習熟度に応じた授業を展開する。
- ④卒業後は、就職や大学・短大・専修学校などへの進学を考えている生徒の希望を生かすものとする。
- ⑤将来の進路において、各種の資格などが取得できるようにする。

このような観点から、5系列を設置し、以下の目標と教科・科目の内容構成を示した。

<各系列の目標>

- ・ビジネス系列……ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得する。特に、不動産・観光・貿易などのビジネスについての意義や役割を正しく理解し、基礎的な実務が行えらるとともに、ビジネス活動を円滑に行うための能力と態度を育成する。
- ・バイオプロダクト系列……生物資源の改良・生産、生産物の加工・流通に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得する。また、生物資源の意義や役割を正しく理解し、生物資源の生産・加工に関する必要な能力・態度を育成する。
- ・テクニカルデザイン系列……デザインの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、デザイン力や構成力を養う。美的感覚を磨き、創造力を養い、表現を身に付け、柔軟な発想力や行動力を育てるなど感性に富み、人間性豊かな人材を育成する。
- ・ライフケア系列……看護や医療、福祉サービスに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得し、その社会的な意義を正しく理解する。また、児童の発育や高齢者の介護・福祉に関する産業についての理解を深め、健康の保持増進に寄与し、健康的な生活の実現に努める能力と態度を育成する。
- ・ライフサイエンス系列……健康で快適な家庭生活の在り方について科学的に考察するとともに、生活関連産業への理解を深め、日常生活の改善を行うために必要となる知識、技能などの基礎を学ぶことによって、豊かな生活文化の創造に取り組む能力と態度を育成する。

(2) 教育課程表

教科	科目	標準単位数	1 年次	2 年次	3 年次	計	
必修科目	国語	国語 I	4			4	
	地理	世界史 A	2	2		4	
		地理 A	2	□ 2 年から 3 年までで 2 単位			
	歴史	日本史 A	2				
	公民	現代社会	4	2		4	
	数学	数学 I	4			4	
	理科	物理 I A	2	1 年から 3 年までで 4 単位		4	
		化学 I A	2				
		生物 I A	2				
		地学 I A	2				
	保健体育	体育	7～9	3	3	2	8
		保健	2	1	1		2
	芸術	音楽 I	2	2		2	
		美術 I	2				
		書道 I	2				
		工芸 I	2				
	家庭	家庭一般	4	2	2		4
合 計			18～22	10～16	2～8	36	
原則履修科目	総 合	産業社会と人間	2			2	
		情報に関する基礎的科目	2～4	4		4	
		課題研究	2		2	2	
必修科目・原則履修科目合計			20～24	14～20	4～10	44	
総合選択科目計			6～10	10～16	20～26	36～46	
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	3	
	クラブ活動	3	1	1	1	3	
基礎科目			基礎科目以外の科目		自由選択科目		
総合選択科目群	ビジネス系列	国語Ⅱ (4)	流通経済 (2)	簿記 (4)* 不動産実務 (4)	国語表現 (2)		
		地理 B (4)	情報処理 (4)	会計 (4)* 観光実務 (4)	現代文 (4)		
		英語Ⅰ (4)		計算事務 (2)* 貿易実務 (4)	現代語 (2)		
		英語Ⅱ (4)		マーケティング (2)* 秘書実務 (4)	古典Ⅰ (2)		
		インターコミュニケーション A (2)		商業法規 (2)	世界史 B (4)		
	バイオブロードクト系列	国語Ⅱ (4)	栽培環境 (2)	英語実務 (2)	日本史 A (2)		
		数学Ⅱ (4)			日本史 B (4)		
		生物Ⅰ B (4)			地理 A (2)		
		化学Ⅰ B (4)			地理 B (4)		
		英語Ⅰ (4)			倫理 (2)		
テクニカルデザイン系列	インターコミュニケーション A (2)		生物Ⅱ (2)	政治経済 (2)			
	生物工学基礎 (4)		* 生物工学 (4)	数学Ⅱ (4)			
	農業情報処理 (4)		応用微生物 (2)	数学Ⅲ (4)			
	農業基礎 (4)		総合実習 (4)	数学 A (2)			
			* 栽培技術 (4)	数学 B (2)			
ライフケア系列	国語Ⅱ (4)		* 飼育技術 (4)	数学 C (2)			
	英語Ⅰ (4)		食品製造 (2)	物理Ⅰ A (2)			
	インターコミュニケーション A (2)		食品加工 (2)	物理Ⅰ B (4)			
	看護基礎医学 (2)		食品流通 (2)	物理Ⅱ (2)			
	基礎看護 (2)			化学Ⅰ A (2)			
ライフサイエンス系列	国語Ⅱ (4)		* レタリング (2)	化学Ⅰ B (4)			
	化学Ⅰ B (4)		構成 (2)	化学Ⅱ (2)			
	生物Ⅰ B (4)		* 人間工学 (2)	生物Ⅰ A (2)			
	英語Ⅰ (4)		* 環境デザイン (2)	生物Ⅰ B (4)			
	インターコミュニケーション A (2)		グラフィックデザイン (2)	生物Ⅱ (2)			
			ビジュアルデザイン (2)	地学Ⅰ A (2)			
			* 色彩演習 (2)	地学Ⅰ B (4)			
				地学Ⅱ (2)			
				音楽Ⅱ (2)			
				音楽Ⅲ (2)			
				美術Ⅱ (2)			
				美術Ⅲ (2)			
				工芸Ⅱ (2)			
				工芸Ⅲ (2)			
				書道Ⅱ (2)			
				書道Ⅲ (2)			
				英語Ⅱ (4)			
				英語Ⅲ (4)			
				英語Ⅳ (4)			
				英語Ⅴ (4)			
				英語Ⅵ (4)			
				英語Ⅶ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			
				英語Ⅷ (4)			

() は単位数を示す * 印はその他の科目を示す

(3) 特色ある教科・科目の構成

前述の教育課程編成の基本的な考え方に照らし、各系列の目標に沿った多くの総合選択科目を設定した。その際、進路指導などのガイダンス機能の充実を図り、実践的・体験的な学習を基本とした教科・科目を考えた。

<総合選択科目群のその他の科目>

教科	科目	ね ら い
商業	不動産実務	土地や建物など不動産の取引に関する法律、建築・登記・税金・広報などの不動産実務の基礎的・基本的な実務を身に付け、不動産取引の分野で活用する能力と態度を育成する。
	貿易実務	船舶や航空機貨物の貿易のメカニズム・国際物流に不可欠な通関業務についての法規や輸出入手続きなど、基礎的・基本的な実務を身に付け、貿易の分野で活用する能力と態度を育成する。
観光	観光実務	国内外のバス・鉄道・航空機などの交通機関の運賃計算、時刻表の使い方、旅行日程の作成など、観光・旅行の業務の基礎的・基本的な実務を身に付け観光の分野で活用する能力と態度を育成する。
農業	生物工学	バイオテクノロジーを支える、遺伝子操作、細胞操作、組織・細胞培養、酵素・微生物利用などの基礎的な知識と技術を習得させ、生物資源の改良、生産の分野で活用する能力と態度を育成する。
	栽培技術	作物、野菜、果樹、草花などの栽培に必要な知識と技術を習得させ、生物資源の改良、生産の分野で活用する能力と態度を育成する。
	飼育技術	家畜、その他の動物等の飼育に必要な知識と技術を習得させ、生物資源の改良、生産の分野で応用する能力と態度を育成する。
工業	人間工学	人間の身体の構造、動きなどを理解させ、人間に優しく、動きに合った器具や機械をデザインする知識と技術を習得させて、デザインの分野で活用する能力と態度を育成する。
	環境デザイン	周囲との構成、色彩の調和に必要な知識と技術を習得させ、公園などの照明器具、ベンチ、電話ボックスや劇場といった公共施設などのデザインの分野で活用する能力と態度を育成する。
	色彩演習	デザインにおける重要な要素である「色」とは何であるかを正しく理解させ、色彩全般の分析、計画を習得させて、デザインの分野で活用する能力と態度を育成する。
看護	医療情報処理	コンピュータの役割や仕組みとその利用方法について理解させ、医療の分野でコンピュータを活用する能力と態度を育成する。
福祉	社会福祉基礎	すべての人々が充実した生活を送れるようにするための社会福祉の制度や在り方などについて学習し、福祉サービスに活用する能力と態度を育成する。
	老人介護	高齢者の心理、行動、衰え等について理解させるとともに、介護について必要な知識と技術を習得させ、福祉サービスに活用する能力と態度を育成する。
家庭	インテリア基礎	健康で快適な家庭生活の在り方について理解させるとともに科学的に生活環境を改善する基礎的・基本的な能力と態度を育成する。

3. 原則履修科目

原則としてすべての生徒に履修させる次のような内容の科目を開設する。授業の実施に当たっては、教材開発委員会を設け、各科目についての実施計画の作成、指導内容や評価方法等の調査研究を行うものとする。さらに地域における有為な人材を活用した授業も積極的に取り入れるように配慮する。

(1)「産業社会と人間」

- 目標
- ・自己啓発的な体験的な学習や討論などを通して、職業の選択・決定に必要な能力や態度、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力の育成を図る。
 - ・自己の充実や生きがいを求め、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度の育成を図る。
 - ・現実の産業社会やその中で自己の在り方生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図る。

実施形態 1年次前後期各2単位で行い、ボランティア活動、職場・施設見学等の体験的な学習を取り入れ、チームティーチング、少人数による班別学習を中心に、講義、討論、調査、実習、見学、演習等の指導形態で実施する。

内容 年間指導計画例(13、14ページ)参照

(2)「情報に関する基礎的科目」

- 目標
- 社会における情報化の進展や情報の意義や役割について理解させるとともに、コンピュータとその活用についての基礎的な知識と技術の修得を通して、情報を主体的に処理し、活用する能力と態度の育成を図り、情報化社会と人間との望ましい関わり方について認識させる。

実施形態 Aタイプ高校：2年次前後期各2単位、Bタイプ高校：各系列の基礎科目に位置づけ前後期各4単位で行い、講義、実習等を中心とした指導形態で実施する。

- 内容
- ・Aタイプ高校：情報技術基礎を中心に、コンピュータとその活用についての基礎的な知識と技術について学習する。
 - ・Bタイプ高校：各系列に「情報処理」「農業情報処理」「コンピュータ造形」「医療情報処理(その他特に必要な教科に関する科目)」「家庭情報処理」を設置、各系列の中で情報処理に関する基礎的な知識と技術について学習する。

(3)「課題研究」

- 目標
- 多様な教科、科目の選択履修によって深められた知的好奇心等に基づいて自ら課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成を図るとともに、自己の将来の進路選択を含め人間としての在り方生き方について考察させる。

実施形態 前後期各2単位で行い、グループまたは個々で研究を進め、レポート作成、発表等の指導形態で実施する。

内容 Aタイプ高校、Bタイプ高校とも、3年間のまとめとして位置づけ、教科、科目や系列に関連した ①調査・研究 ②実験 ③作品制作 ④産業現場の実習 ⑤職業資格の取得などを中心に学習する。

(4) 「産業社会と人間」の年間指導計画例 Aタイプ総合学科高等学校

月	項 目	指 導 内 容	留 意 事 項	指導形態
4	オリエンテーション 自己を見つめる	1. 「産業社会と人間」について 2. 自己紹介 3. 入学動機調査、性格・興味等の適性 検査	どんなことを、どのように学ぶかを理解させる。 今までの自分について考える。	講義 発表 調査・検査
5	自分を相手に伝える	1. 「話し方の基本」について 2. 5分間スピーチ	自分の考えを的確に表現する。 伝達手段に多様な形式があることに気付かせる。	講義 発表
6	他人を理解する	1. 「人権尊重と思いやりの心」について 2. 他人を理解するとはどういうことか	自分を理解してほしい思いと、同じ程度の思いで他人を理解しているか気付かせる。	講義 討論
7	社会と人間を考えるⅠ	1. 「人間は社会的存在である」について 2. 各個人にとって幸福な社会とは	自我の目覚めとともに自己の価値観を確立させる。	講義 討論
8	ボランティア活動	1. 養護施設・福祉施設訪問、地域での奉仕活動	他人の状況を自分に置き換えて考えさせる。	見学・体験 実習
9	社会と人間を考えるⅡ	1. ボランティア活動の実践報告 2. ボランティア活動を通じて得たこと 反省点、今後の抱負	人間と人間が支えあって作り上げていくのが社会であることを再認識させる。	発表 討論
10	自己実現を目指す	1. 進路と学習について 2. 系列選択科目のガイダンス 3. 自己の学習計画と科目選択	自己の人生の主人公は自分であり そのためには現在を如何に生きるべきかを考えさせる。 将来への希望を尊重した選択をさせる。	講義 講義 演習
11	環境と人間について考える	1. 第一次産業と人間 2. 環境破壊と人間生活について	日本の農業・林業・水産業の現状を考察させる。 新聞記事など資料を基にまとめさせる。	講義 レポート
12	科学技術と人間について考える	1. 第二次産業と人間 2. 科学技術の進歩と功罪について	日本の製造業の現状を考察させる 事例を設定して討論させる。	講義 ディベート
1	情報と人間について考える	1. 第三次産業と人間 2. 情報社会が人間に及ぼす影響について	日本のサービス業の現状を考察させる。 資料を基に自分の考えをまとめさせる。	講義 小論文
2	国際社会の一員としての自己を考える	1. 国際社会とはどういうことか 2. 世界の中の日本人について 3. 国際社会の課題	国際社会をとりまく課題について理解させるとともに宇宙船地球号の一員として、どう自己を生かしていくかをまとめさせる。	講義 小論文 討論
3	まとめ	「産業社会と人間」を学んで		小論文

(4) 産業社会と人間の年間指導計画例 Bタイプ総合学科高等学校

月	項目	指導内容	留意事項	指導形態
4	オリエンテーション 自己を見つめる。	「総合学科」について 「産業社会と人間」という科目。 1. 自己紹介 2. 諸検査、調査 ・入学動機調査 ・興味、適性検査 ・科目選択予備調査 3. 個性について ・性格、興味、関心チェック (検査結果と自己分析)	・どんなことを、どんなふうに学ぶのか理解させる。 ・新しい科目の学習の動機づけを持たせる。 ・今までの自分について考えさせる。	講義 作文 調査
5	青年期の生き方	1. 青年期の課題について 2. 青年期と学校生活 3. 体験学習 ・障害のある同年期の生徒と交流 ・学校見学	・自分の個性や性格について考えさせる。 ・討論を中心に今日的課題を理解させる。 ・高校での生活とは、どのようなものか考えさせる。 ・自分と異なった環境の人達の生活を通して、自分の役割や立場について話し合わせる。	討論 討論 実習 討議 見学
6	職業と生活	1. 産業の発達と職業について 2. 人生における職業のもつ意味 ・人生と職業 ・働くことの意義及び目的 3. 社会人講話 4. 職場見学	・産業や職業の種類や内容について調べさせる。 ・職業につく意義について理解させる。 ・働くことが社会生活にとって重要な意味があることについて考えさせる。 ・各方面より社会人講師を招く。 ・近隣企業、地場産業を見学して、職場の実際を理解させる。 ・職場生活とマナーについて理解させる。 ・進路の方向を考えさせる。	演習 講義 講演 見学 実習
7	進路について考える	1. 系列選択科目のガイダンス	・職業生活を保護するための法律について、どのようなものがあるか調査させる。 ・職業に関する諸制度や求人票の見方について学習させながら、希望する職業につくために必要な資格、免許、能力、学歴についてまとめさせる。 ・自己の職業選択の基準とさせる。	講義 調査
9	職業と生活	1. 職業生活と法律 ・職業生活を保護するための法律 ・職業に関する諸制度や資格 2. 望ましい職業観、勤労観		討論
10	我が国の産業の発展と社会の変化	1. 科学技術の発達と産業社会 ・情報化社会の生活 ・国際化社会の生活 ・高齢化社会の生活 2. 産業の発展と日常生活の変化 ・大量消費社会への対応 3. 産業の発展と資源、環境問題	・産業、就業構造の変化について調査し発表させる。 ・情報化社会、国際化社会、高齢化社会の社会生活に及ぼす影響について理解させる。 ・日常生活に見られる変化の背景を産業の発展と関連させて考えさせる。 ・真の豊かさとは何かを考察させる。 ・産業の発展がもたらした環境問題について関心を高めさせ自然環境と人間が共生することの大切さを理解させる。 ・就職や進学について慎重に検討させる。 ・ボランティア活動の在り方と実際を理解させる。	調査 講義 討論 発表
11	進路と自己実現	1. 就職、進学について ・養護施設、福祉施設の見学 ・地域での奉仕活動 ・大学、専門学校の見学 ・卒業生講話 2. 学習計画と科目選択のガイダンス ・各系列から実習科目について選択実習 3. 履習計画の作成	・大学、短大、専門学校の種類と特色を調査させる ・入試方法(推薦、一般)について調べさせる。 ・進路選択にかかわる先輩の体験談を聞かせる。 ・系列の内容、特色について理解させる。 ・自己実現のための学習計画をもとに、2、3年次を見通して学習の系列や多様な選択科目の中から主体的に適切な科目、教科を選択させる。 ・適性と希望を生かした職業について考えさせる。 ・希望する職業の特性や条件について調べさせる。	講義 見学 調査 講演 実習
12		4. 職業と自己の適性について 5. 職業適性検査の実施 6. 自分の進路設計	・社会で求められている職業人について理解を深めさせ自己の在り方について考えさせる。 ・これまでの学習を振り返り、自分の職業志望と理由等についてもう一度確認させる。	演習 講義 調査 討論
1				
2				
3				

IV 特色ある教育活動の推進

1. 授業における指導の工夫

(1) 個別指導の充実

ア. 学習集団の少人数化

総合学科に入学してくる生徒は、興味・関心が多岐にわたるとともに、その能力・適性等も非常に幅が広く、多様なものになることが予想される。また、総合学科では、原則履修科目として開設される「産業社会と人間」、「情報に関する基礎的科目」、「課題研究」や各系列ごとの多様な専門教科・科目などで、特に、きめ細かな指導が要求される。そのため、授業においては、習熟度に応じた学習やティームティーチングなどを取り入れ指導方法の工夫を行うとともに、学習集団を少人数化し、個別指導のできる機会を多くする必要がある。

イ. 学習集団の規模と施設

募集する1学級当たりの定員は40人であるが、進路ガイダンス等の充実、徹底を図るため、1学級を2つのホームルームに分け、1ホームルーム当たりの集団は20人とする。そして、第1年次の「産業社会と人間」は、このホームルームを学習集団の単位として、すべての生徒が履修する。また、このような個別指導の充実を図るため1科目当たりの平均履修者数も20人と想定し、これをもとにして学習集団の弾力的な編成を考える。例えば、科目によっては、この学習集団を適宜合同したりすることも考えられる。その際、より大きな学習集団に対しては、ティームティーチングや班別学習を取り入れるなどの授業形態の工夫を行う。このため、少人数用の専用教室に加え、間仕切りにより、大きさを変更できる教室を設置する。また、実験・実習室、コンピュータ室等の特別教室は、分割使用を可能にするなど少人数化に対応した機能性をもたせる。さらに、10人程度の学習集団に対応した教師と生徒の対話が密にできる学習室や、様々な学習環境に合う多目的教室や多目的ホールなどを設置することも必要である。

(2) 習熟度に応じた学習の工夫

ア. 学習内容に違いをもたせた講座の開設

多様な能力・適性等をもつ生徒一人一人に自ら学ぶ意欲を育てるとともに、基礎・基本を習得させ、個性の伸長を図るためには、学習内容の習熟の程度に応じた指導が必要である。特に、単位制、無学年制に基づく総合学科では、生徒は学年にも年齢にもとらわれずに、自己の興味・関心、能力・適性等に応じて授業を選択することができる。そのため、選択科目の履修に伴う学習履歴に違いが生じやすい。従って、同一の科目でも学習内容に違いをもたせた講座を用意するなどして、生徒の実態に即した授業を行う必要がある。

生徒の実態に即した、多様な教科・科目の設置とその学習内容に違いをもたせた選択科目の設置との相互補完により、学習到達度や学習速度、興味・関心の異なる生徒の多様な学習ニーズに応えられる総合学科が実現できる。

イ. 習熟度に応じたクラス編成

特に、国語、数学、英語等の学習習熟度の差が大きくなりやすい教科・科目では、習熟度に応じてタイプ分けし、学習進度の異なる講座を同時展開で開設する。そして、基礎クラスでは、学習内容を精選するとともに、生徒が十分に理解した上で先に進むような授業を展開し、基礎

学力の充実を図る。また、発展クラスでは、高度な内容の授業を提供することで生徒の学習への欲求を満たし、より深い内容への意欲を喚起する。生徒は、自分の能力・適性に即した学習内容の講座選択が可能となり、学習内容の理解を十分に深め、学習意欲が高まる。

(3) ティームティーチングの工夫

総合学科では、生徒一人一人の特性や進路希望等に、より細かく、より幅広く対応できるように、広い視野に立った多様な指導方法の開発が必要である。その一つが、複数の教師がティームを組み、それぞれの特性を生かして、協力し合いながら授業を進める、ティームティーチングである。とくに、「産業社会と人間」では、進路にかかわる総合的な学習が必要であり、また少人数の班別学習や進路等にかかわる個別相談なども重視しなければならないことから、ティームティーチングによる指導が有効である。

「産業社会と人間」におけるティームティーチングとしては次のようなものが考えられる。

ア. 教員ティームの組織の例

ホームルームを学習集団とし、原則としてホームルーム担任が担当する。しかし、通常は2つのホームルームを合わせて授業を行い、2人のホームルーム担任とそれ以外の教員がティームを組織して指導に当たる。講演会や職場見学などを行う場合は、さらに同時展開している他のティームと合同して授業を行うこともある。学期当初のオリエンテーションなどは、この科目のすべての担当者がティームを組織し、役割分担を決めて指導に当たる。

イ. ティームティーチングの進め方の例

(ア) 協同方式によるティームティーチング

科目の担当者が共同して指導計画の立案、準備、実施、評価を行う。複数の教員のうち誰かが主となる教師となって主導・進行し、他の教員は教材・教具の準備や生徒への助言、学習状況の評価を行うなど、適宜役割分担して指導に当たる。

(イ) 学習課題に応じたティームティーチング

「産業社会と人間」は、「職業と生活」「我が国の産業の発展と社会の変化」「進路と自己実現」の3つの内容で構成されている。そこで、これらの学習課題によって教師の役割分担を決め、割り当ての学習内容を責任をもって進行する。課題別に班別学習を行う場合は、受けもちを決め、その学習課題について指導助言する。

(4) 体験的な学習と問題解決学習の重視

ア. 体験的な学習とその内容

生徒の発達段階が進むにつれて、抽象的な理解力が深まり、論理的な思考力が高まるため、具体より抽象、事実より論理といった姿勢で学習がなされがちである。しかし、具体的な事実に基づくことによって学習は確実に身に付いたものとなり、生徒の学習への興味、関心はより高まる。とくに、総合学科に設置される系列の中には、実験・実習を重視する科目も多い。また、「産業社会と人間」では、自己啓発的な体験や討論などの体験的な学習が職業生活や産業社会の仕組みを学ばせる上で欠かせない手段や方法となっている。従って、特にこれらの授業

においては、専門的な技能を習熟させたり、自己の進路にかかわる啓発的な体験や勤労・奉仕等の幅広い社会参加の体験を得させる活動を取り入れたりすることが必要である。

体験的な活動としては、次のようなものが考えられる。

- (ア) 地域の企業等において見学や実習を行う。
- (イ) 地域の医療施設や社会福祉施設等においてボランティア活動を行う。
- (ウ) 地域の環境美化のためにボランティア活動を行う。
- (エ) 地域の自然や伝統文化と触れ合う活動を行う。
- (オ) 地域の社会人の豊かな経験を聴講する。

イ. 問題解決学習と課題研究

激しく変化する社会では、主体的に生きていく力と、社会生活で直面する多くの課題を解決する力を身に付けた職業人の育成が強く求められる。そのためには、実験・実習等により実際の・体験的な学習の充実を図るとともに、習得した知識や技術を問題解決能力として伸ばすための問題解決型の学習を一層重視する必要がある。とくに、総合学科で行う「課題研究」は、生徒自らが課題を設定し自発的、主体的に取り組む学習であり、問題解決学習の主たるものである。生徒が課題解決に向けて様々な学習方法や学習態度を身に付けられるように指導するとともに、学習を通して成就感を体得し、思考力、判断力など社会の変化に対応できる能力を身に付けられるように指導する必要がある。「課題研究」の内容としては、教科・科目や系列に関連した①調査・研究、②実験、③作品製作、④産業現場の実習、⑤職業資格の取得、などが考えられる。

(5) 資格取得の奨励、技能審査の成果の単位認定

教育内容との関連が深い資格等の取得は、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習態度を育成する上で有益であり、進学や就職の際においても相応の評価がなされている。総合学科では、生徒の優れた能力を一層伸ばすとともに、将来の職業選択を考える上で有効であるとの観点から、教育内容との関連が深い資格等の取得を積極的に奨励する。そして、そのための援助策として、資格取得を目指す科目を開設したり、前述のような課題研究の学習内容に職業資格の取得を取り入れることなどを積極的に行う。また、生徒が技能審査に合格し資格等を取得した場合には、関連する教科・科目の増加単位として認定する。これらのことは、多様な選択科目の設置とともに、生徒の学習選択の幅を広げる意味で、意義は大きいと考える。

なお、導入する技能審査の種類とそれに対応する教科・科目及び認定する単位数等については、文部省が公表しているガイドラインや、都教育委員会が示す標準例に沿って考えるものとする。

(6) 学校、地域、他の教育機関との連携・交流

ア. 高等学校間の連携・交流

総合学科では、普通科目及び専門科目にわたって多様な選択科目の開設が必要となるが、教員組織及び施設・設備等の問題から、教育課程に設置できない教科・科目が生じる場合もある。このような場合、生徒の選択学習の機会を拡大する教育課程上の工夫が必要である。その一つが、他の高等学校と授業の相互乗り入れを行う学校間連携である。平成5年度に制度が改正されて以後、高等学校間の単位互換は、連携校間の協議のみで、すべての学校、課程の間で実施

が可能となった。

学校間連携の基本的な考え方としては、次のようなことが考えられる。

(ア)異なる学校の教職員及び施設・設備を活用して教育課程の弾力化と科目選択の拡大を図る。

(イ)希望者に特色ある普通科目及び専門科目を履修させる機会を与え、社会の要請に応じた教育の推進を図る。

(ウ)より専門的な実験・実習等による体験的な学習により、新たな学習意欲の喚起を図る。

(エ)他校との連携により、生徒・教職員間の相互理解や自校の特色に対する認識を深める。

総合学科で特に連携の必要な教科・科目としては、専門の教科・科目のうち特別の施設・設備を利用する場合などが考えられる。生徒にとっては、①異なる学校で自校にはない科目を学ぶことの新鮮さ、②実験・実習など具体的な成果を直接味わえることによる成就感、③学習内容が直接自分の進路に結びついているという実感などがあり、学習意欲が一層喚起される。生徒が専門性や特色の異なる他校で学習することの意義は大きい。しかし、連携に当たっては、連携校の生徒の実態、学習希望の把握、実施教科・科目の決定と時間割の編成に当たっての教育計画の調整、評価・評定を実施する際の調整、生徒指導上の問題など様々な課題を解決しなければならない。

イ. 大学との連携・交流

多数の大学が集中する東京都の総合学科においては、近隣の大学とカリキュラム上での交流を図ることも有益である。従来から一部の高等学校では、進路指導の一環として大学を訪問させ、大学ではどのような学問研究がなされているか、学生は何を学び将来の進路をどのように考えているか、施設・設備・カリキュラムはどのようになっているか、などの認識を深めさせている。一方、文部省の「教育上の例外措置に関する調査研究協力者会議」が平成6年3月にまとめた最終報告書では、数学や物理などの特定分野の個性を伸ばすため、特に能力の伸長の著しい高校生に対しては大学レベルの教育研究に触れる機会を多様な形で提供することを求めている。そして、教育機会の形態・方法として、①聴講生や科目等履修生として、大学などの正規の授業に受け入れる、②大学等の教員が学外に出向いて個別指導を行う、③大学等で公開講座を開講する、④放送大学等で受け入れる、⑤民間団体・組織等がセミナーや講座を開講する、などを示している。このように、大学との連携協力の機運は高まりつつある。

総合学科では、さらに進んで、学問的な意欲・関心を高める学習として、また自己の進路への自覚を深めさせる学習として、大学の教員に定期的にまたは長期休業等を利用して、高等学校での講演や専門性に富んだ講義を依頼し、生徒への啓発に活用する。また、大学等の充実した専門的な施設・設備を利用して課題研究を行うことも考えられる。これらの特別講座や大学等での学習活動は、生徒には総合学科で開設されている多様な選択科目から受けるものとは違った良い刺激となるとともに、直接的な進路指導としても意義がある。その際、大学との意思疎通を十分に図り、連携協力関係をより緊密にしていくことが重要となる。

ウ. 専修学校との連携・交流

生徒の選択履修の幅を拡大する方法としては、専修学校の教育機能を活用することも考えられる。とくに、平成6年度の文部省の学校基本調査によれば、東京都には454校が集中し、工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、家政、文化・教養の8分野に渡って多様

な学科が設置されている。このような現状を踏まえ、生徒が各種の資格取得に情熱を燃やし、放課後や休業日等に専修学校において学習した成果は、総合学科で設置する選択科目の一部の履修に相当するものとみなし単位を認定する。そのためには、単位認定を希望する生徒が提出した書類等を審査する組織を整備していくことも必要である。

エ. 各種施設、民間企業との連携・交流

技術革新の激しい今日、専門の教科・科目の授業は、学校の施設・設備だけでは十分とはいえない。そのような場合には、各種の共同施設との連携・交流を深めることも必要である。その中でも、都立先端技術教育センター（仮称）は、先端技術を用いたシステム化された実習設備や学校で設置が困難な機器等を充実し、都における高校テクノセンターとしての役割を担う予定であり、学校での実験・実習の授業を補充するのに適している。

また、東京都には図書館をはじめ、博物館、資料館、美術館等が豊富にあり、これらを活用した体験的な学習も効果的な学習を行う上で大切である。

さらに、民間企業や医療・社会福祉施設などとの連携、交流を深めることも必要である。特に、地域の企業などにおける見学や実習、医療・社会福祉施設などにおける実習やボランティア活動は、系列に設置された専門教科・科目の授業として必要であるばかりでなく、「産業社会と人間」における自己啓発的な体験的な学習としても有効である。

オ. 地域社会との連携・交流と開かれた学校づくり

総合学科では、地域社会に様々な学習の機会を提供したり、地域の教育力を学校教育に取り入れるなど、地域との連携・交流を一層推進して、開かれた学校づくりに努めることも大切である。特に、地域社会への学習機会の提供としては、公開講座等を積極的に開設し、地域の生涯学習センターとしての機能を果たすことが期待される。また、地域の専門家を「産業社会と人間」や選択科目の市民講師として招いたり、講演会・講習会等の講師やクラブ・部活動の指導員として依頼するなど、社会人を講師として活用するとともに、生徒を地域社会での文化的、体育的な諸活動に参加させ、その成果を体得させることも必要である。

2. 特別活動

特別活動は、集団の中で人間としての在り方生き方についての自覚や自己を生かす能力を養うための自主的な学習の機会として、中心的な役割を果たすものである。このため、特別活動を充実させ活性化させることは、大変意義のあることである。しかし、単位制をとる総合学科では、学習集団として一つに固定したホームルームは原則として存在せず、特別活動については、組織や活動形態、活動内容などを特に工夫する必要がある。

（1）ホームルーム活動

総合学科では、生徒一人一人が主体的に学習計画を立て、自分の時間割に従って学習することになる。そのため、学習集団は授業によって異なり、生活集団としてのホームルームは希薄になりがちである。そこで、ホームルームは原則として入学年次の同じ生徒で少人数編成とし、3年間固定で卒業まで持ち上がり、集団への帰属意識を高める。ホームルームは3年次で卒業式を迎え、生活集団としては解散する。編入生、転入生は、在学期間に関する規定に従って柔軟に対応し、想定される年次のホームルームに所属させる。

ホームルーム担任は、入学年次に全員に履修させる「産業社会と人間」を担当するとともに、

生活指導、進路指導を担当し、各分掌組織と協力して指導に当たる。担任等の学年団は原則として持ち上がる。

生徒への連絡は、生徒玄関等に設置した電子掲示板を活用する。ロングホームルームは、週1単位時間を設定するとともに、学校行事、生徒会活動への参加、職場見学等の体験学習などをホームルーム単位で実施し、帰属意識を高める活動時間を十分に確保する。

(2) クラブ活動、部活動

クラブ活動は、週1単位時間を設定し、原則として全員参加とする。部活動への参加者は、それをもってクラブ活動の履修に替えることができるようにする。ここでの総合学科は全日制を考えており、部活動は従来通り放課後に実施する。

(3) 生徒会活動

生徒会は、ホームルーム、委員会、部を組織の基本単位とする。委員会の委員は各ホームルームから選出し、その任期は1年とする。生徒会の組織は、〔生徒総会〕－〔中央委員会〕－〔委員会、部長会、ホームルーム〕で構成する。中央委員会は、全生徒から選挙によって選出された中央委員によって構成され、各種の学校行事の企画、運営等を行う。

(4) 学校行事

ホームルームを単位として参加する体育祭、文化祭、合唱祭、遠足、野外実習やボランティア活動等を設定する。ボランティア活動などの体験的な学習は、「産業社会と人間」の授業との関連を考慮する。学校間連携を実施している場合には、学校間の連携・交流を促進する行事等（スポーツ交流など）を工夫していく。

3. 生徒指導

高等学校においては、生徒が意欲的に学校生活を送るとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことが求められている。しかし、入学当初から学校生活に楽しさを見いだせなかったり、学習や将来の進路、友人関係や家庭環境に対して悩みや不安を抱えていたりする生徒もでてくる場合もある。特に総合学科においては、単位制であることから一人一人が自分の時間割で学習するために、ホームルーム担任は生徒の生活状況を把握しにくい場合がある。従って、生徒指導体制の整備に一層努めるとともに、教育相談の機能を充実させる。そして、入学当初からのきめ細かな適応指導や、生徒一人一人の長所を理解し、評価して励ます指導の徹底を図る。

(1) 生徒指導体制の整備

総合学科では、生徒の実態を多面的、総合的に把握し、生徒たちが学校生活に充実感をもてる学校づくりを推進するため、生徒指導の組織を、学校全体の生徒指導の企画・立案を行う生徒指導部と、個別的・相談的指導を行う教育相談部に分け、協力して指導に当たる。

(2) 教育相談の充実

悩みや不安を抱く生徒などに対して、適時・適切に指導を行うため、教育相談室を設置し、複数の専任のカウンセラーを常駐させる。また、教育相談部では、生徒理解に関する教員の意識を啓発する研修を企画したり、相談方法の工夫に努める。そして、ホームルーム担任や教科担任、家庭や地域社会との連携に努め、教育相談の組織の充実を図る。

4. 進路指導

将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視し、進路指導の一層の充実を図る必要がある。このため、動機付けとなる「産業社会と人間」を通して、進路ガイダンスを充実するとともに、中核となるホームルーム活動と連携して組織的、計画的な指導を行う。進路学習を進めるに当たっては、進路に関する情報を提供するだけでなく、自己啓発的な体験的な学習や討論などを重視する。

(1) 授業を通じた進路ガイダンス

入学年次にホームルーム活動に加えて、進路ガイダンスを科目としての授業として行う。このため、原則としてすべての生徒に、「産業社会と人間」を履修させる。この科目は、すべての科目のオリエンテーション的な性格をもち、自己の学習計画や科目選択にかかわるガイダンス、進路ガイダンスなどの内容をもつ。この科目の学習を通して、総合学科で学ぶ目的や自己の進路への自覚を深めさせる。

(2) 進路適性の理解を深める活動

生徒に適切な進路の選択・決定をさせるためには、教員の生徒理解及び生徒の自己理解を深めることが大切である。そのためには、生徒の個人資料や日常の観察、個人相談や三者面談などにより生徒の進路適性等を的確に把握する必要がある。また、適性検査や校内模試を実施するとともに、資格取得の講座を開設したり、相談窓口などを設けて資格取得を奨励していく。

(3) 進路指導のインテリジェント化

進学案内や就職案内など進路に関する資料や情報を収集、整理・精選して生徒に適切に提供し、自己の進路の選択・決定に活用する。その際、卒業生の進学情報や就職情報など各種の進路情報をデータベース化し、生徒がコンピュータ端末を自ら操作して閲覧できるようにしたり、生徒の個人情報データベース化して単位取得状況や成績を閲覧できるようにするなど、進路指導のインテリジェント化を進める。また、ハートシステム（NTTのキャプテン通信網を通じて、大学入試センターが収集した大学情報を閲覧するもの）など外部の進路情報の閲覧も可能にしていく。

なお、その際、個人のプライバシーの保護については、十分配慮することが大切である。

(4) 啓発的体験を深める活動

生徒の体験や経験を通して、自己の能力・適性等を認識させ、その過程で望ましい勤労観や職業観の形成を図る。このため、ボランティア活動や職場見学・現場実習等の体験的な学習を「産業社会と人間」や専門教科・科目の授業の一環として、または学校行事として実施する。実施に当たっては、民間企業や社会福祉施設、公的機関との提携・協力を積極的に進める。

(5) 進路先への適応指導

生徒が卒業後の就職先や進学先において、よりよく適応し、望ましい自己実現を図ることができるよう卒業生に対する追跡調査を実施する。また、先輩の体験談を聞く会等を企画し、職場や上級学校の実際についての理解を深めさせ、卒業後の生活についての心構えをもたせる。

V 学校経営上の課題

1. 教育課程の編成・実施上の課題

(1) 進路ガイダンスの充実

生徒が自己の興味・関心に基づいて履修科目を主体的に選択するため、進路実現のためのガイダンスを充実する必要がある。特に、総合学科では、複数の系列が設定されているので、自己の進路希望等に基づき、計画的・系統的な学習が進められるよう、指導の充実を図る必要がある。また、生徒の中には空き時間が出てくることもあり、その活用についても配慮することが求められる。

(2) 特別活動の充実

学習集団が科目ごとに異なり、ホームルームごとの活動が減少し、ホームルーム活動が不活発になりやすく、帰属意識が希薄になりがちである。そこで、ホームルーム単位での体験的な学習や学校行事における活動をより積極的に取り入れる工夫等十分な配慮が必要である。

(3) 転・編入学の促進

他校から転入学してくる生徒の入学前に在籍していた学校での修得した単位は、柔軟に認定することが必要である。また、いったん入学した高等学校になじめない生徒や中途退学したのち、再度高等学校に就学したい生徒などの受入れを進める必要がある。

(4) 設置教科・科目の多様化の推進

生徒の特性、進路希望等に応じて適切な教育を行うため、生徒が自由に選択履修することができるよう、多様な選択科目を設ける必要がある。

(5) 指導体制の充実

多様な生徒の個性に応じるため、習熟度に応じた授業やチームティーチングによる授業、少人数による授業など多様な学習指導形態が必要である。このためには、十分な教員を確保して指導体制を充実することが大切である。また、コンピュータ室を十分に活用するため、常勤するSE(システムエンジニア)を置いたり、実験・実習を充実するために、助手を確保するほか、非常勤の市民講師の導入及び専任のカウンセラーの配置など十分な教職員数を整える必要がある。

(6) 教員研修の充実

原則履修科目の「産業社会と人間」、「情報に関する基礎的科目」、「課題研究」は新しい科目であり、総合学科の目的を達成するには特に重要な科目である。また、「その他の科目」についても生徒の興味・関心、意欲を引き出すのに大切である。そのため、これらの指導法や評価の在り方等の研究開発が必要であり、そのための教員の研修について、なお一層充実する必要がある。

2. 施設・設備の課題

(1) 選択履修科目が多くなるので、間仕切等の機能をもった施設が複数必要であり、また、パソコン室も複数設置し、間仕切による少人数授業をも可能にするとともに、生徒への開放が行えるような管理方法を検討する。

(2) 大型のコンピュータを設置し、校内をネットワーク化する必要がある。生徒はICカードで個人情報をもいつでも検索できるようにする。また、教師は、各系列の「情報に関する基礎的

科目」の授業に、このコンピュータを活用するとともに、この科目に対応したソフトウェアの充実を図る必要がある。また、学校生活上の生徒への諸連絡は放送を使わずに電子掲示板等を用いて行う。さらに、視聴覚教室など特別教室では、生徒がいつでもこれらの機器等を個人利用できるようにする。このように学校のインテリジェント化を積極的に推進する必要がある。

(3) 従来の施設に加えて食堂(カフェテリア)、講堂、第二体育館、室内プール、ミーティング室を設置するばかりでなく、各系列ごとに実験・実習に必要な施設・設備の充実と学校図書館の一層の充実を図る必要がある。また、複数の学習集団が合同で使えるような多目的ホールを複数設けることが必要である。

3. 校務運営組織の課題

(1) 既存の部以外に、生徒の個別的・相談的な指導を行う「教育相談部」を設け、教育相談の充実を図るため、専任のカウンセラーを常駐させた教育相談室を複数設置する必要がある。

(2) 出席状況や成績など個人情報の管理、処理を行う「情報処理部」を設ける必要がある。

(3) 高等学校が中学校の生徒及び保護者から選択される時代を迎え、中学生や保護者、地域の人々への広報活動はさらに重要となるので、「広報部」の設置が必要である。具体的には、学校案内の作成、学校紹介ビデオの作成、中学生への一日体験入学の企画立案、中学校訪問の実施計画、学校見学の案内等を行う。

(4) 原則履修科目や「その他の科目」の指導の充実を図るためには、教材開発を行う「教材開発委員会」を設置する必要がある。

(5) 学校運営においては、常に計画・実践・評価というサイクルを繰り返すことが大切である。このため「学校評価委員会」を設置して、学校運営の在り方を組織的、継続的に検討し、学校評価を行い、学校改善を図ることが極めて重要である。

4. 入学者選抜方法の課題

多様な特性や進路希望等をもった生徒が志望してくるため、推薦入学をはじめとした従来の選抜方法を一層、多様化するとともに、自己推薦書に基づく選考や生徒が事前に申告した選抜方法による選考(アラカルト方式)などを行ったり、選抜尺度の多元化を図る必要がある。

5. 進路指導の課題

生徒が自己の進路・職業などを考え、将来に向かって自己実現を図るようになるため、進路指導の充実が必要である。その際、学校として、この総合学科の高等学校が社会で正しく理解されるように働きかけをすることが大切である。特に、大学等の上級学校への進学に際しては、総合学科における学習内容が積極的に評価されようとして理解を求めていくことが必要である。また、企業に対しては、総合学科の生徒が身に付けた職業に関する基礎知識や技術が正しく評価されるように、継続的に働きかけ、就職先を常に開拓する必要がある。

7. 開かれた学校としての課題

(1) 学校施設や教育機能の開放

学校の施設及び教育機能に地域の生涯学習センターとしての機能をもたせ、公開講座の開設及び体育館や校庭、図書館等の開放、一部の科目履修生の実施など学校施設や学校の教育機能を地域社会に開放していくことが必要である。

(2) 地域の施設や人材の活用

東京という地域性を生かして、博物館、美術館、資料館、図書館などを活用するとともに地域に住む専門家を市民講師として招き、講演会の開催や選択講座の開設に役立てる必要がある。

(3) 他の高等学校、専修学校や大学との連携・交流

開設が困難な教科・科目を生徒が選択できるよう、学校間連携や専修学校及び大学との連携・交流について積極的に検討し推進することが必要である。

(4) 企業や社会福祉施設等との連携・協力

地域の企業及び社会福祉施設等の見学や実習を授業計画に組み込み、ボランティア活動や現場実習など体験的な学習を取り入れることが必要である。

(5) 「開かれた学校」というのは、単に施設等を開放するだけでなく、社会の要望や評価に応え、耳を傾けることが必要である。

VI まとめ

今年度より新学習指導要領が学年進行で実施され、新しい教育課程の編成のもとで様々な実践が行われている。今日、中学校卒業者の大幅な減少と多様な特性、進路希望等をもった生徒の入学にとともに、高等学校では、多様で弾力的な教育課程を編成し、特色ある学校づくりを推進することが大きな課題となっている。そこで、本部会では、東京都における総合学科高等学校の研究を行うことにした。首都東京の地域性を生かした系列の在り方を研究し、A、B 2つのタイプの総合学科高等学校を考えた。そして、それぞれのタイプの総合学科高等学校についての教育課程の編成や学校運営組織等について研究・協議を重ねた。また、原則履修科目である「産業社会と人間」の指導計画、学校間連携等の各種制度の導入、学校の施設・設備のインテリジェント化、校務運営組織などについて研究・協議を深め、平成8年度開設予定の「都立晴海地区総合学科高等学校」(仮称)に次ぐ、東京都における第二、第三の総合学科高等学校の在り方を研究した。

本研究は、高校教育を充実・活性化させていくという東京都の課題に対して一つの方向を示すものであり、総合学科の理念や「その他の科目」の設置、各種制度の導入などは既存の学校でも十分生かされるものであると確信している。

今後、この研究報告書が各学校の教育経営の資料として役立てられることを研究員一同、心より願うものである。